STAGE EVOLUTION
LIGHTING EQUIPMENT SPECIALIST

LASER7

取扱説明書

SOUND HOUSE INC.
株式会社サウンドハウス
〒286-0044　千葉県成田市不動ヶ岡 1958
TEL:0476(22)9333　　FAX:0476(22)9334
http://www.soundhouse.co.jp shop@soundhouse.co.jp

はじめに

Stage Evolution照明機器をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用になる前に取扱説明書をお読み下さい。

本体をご使用になるまえにお読みください

1. 100V 50/60Hz電源をご使用ください。
2. 本体を電源に接続すると、緑色の4.9mWレーザーが発光します。またサウンドアクティブでプリセット光線が発射されます。
3. レーザーを直視しないでください。長時間静止した光線を直視すると、網膜が損傷を受ける恐れがあります。
4. 短い間隔で電源のON/OFF切替をしないでください。レーザーが損傷を受ける恐れがあります。
5. 本体を揺り動かさないでください。
6. 本体は稼動中に高温を発生させるため、通気性の良い場所で使用し、周りには物を置かないでください。使用後本体を移動させる場合、十分な冷却時間を取ってください。
7. 本製品は連続15分以上稼動させないでください。15分稼動させたら最低15分間電源をOFFにしてから再度使用します。
8. バッテリーやレーザーダイオードは消耗品となり、寿命によって点灯しない場合については、保証の対象外となります。
9. サウンドアクティブ、AUTO、マスター/スレーブの3モードがあります。

レーザー製品　取り扱い上の注意

○ 目に直接レーザー光が入った場合、網膜に障害を起こす恐れがあります。
事故を避ける為、必ず下記項目を厳守して頂けますようお願い申し上げます。

1. 使用中に発光部を絶対に覗かないで下さい。
2. レーザー光を正面から直視しないで下さい。
3. 手に持って使用せず、必ず本体を固定して使用して下さい。
4. 人（特に頭部）にレーザーがあたる位置には設置しないで下さい。
5. ムービングタイプに関しましては、目に直接レーザー光が入らないような動作にて使用して下さい。

仕様

電源：100V 50/60Hz
ヒューズ：2A/250V
ダイオード：4.9mW グリーンレーザー
寸法：W56×D16.9×H20cm
重量：5.8kg

モード設定

LASER7はスタンドアローンモードとDMXモードを切り替えることが出来ます。スタンドアローンモードでは、音楽に合わせてレーザーが発光するサウンドアクティブモードと、自動的にレーザー発光が切り替わるAUTOモードが設定できます。各設定はディップスイッチで行います。下記の表を参照してください。

ディップスイッチ										機能
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
×	×	×	×	×	×	×	×	×	OFF	DMXアドレス設定
OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	スレーブモード
ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	AUTOモード
OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	サウンドアクティブモード（マスターモード）

DMXモード

DMXモードに設定するには、ディップスイッチ10をオフにしてください。アドレスの設定は巻末のディップスイッチのチャンネル設定を参考にして下さい。
DMXの各チャンネルごとのDMX値は下記の表を参照して下さい。

チャンネル1		チャンネル2	
DMX値	レーザー位置	DMX値	ゴボ
0-24	1番目	0-15	暗転
25-49	2番目	16-159	レーザー位置固定
50-74	3番目	160-207	レーザー縦振り 1~8番目間移動、速度可変
75-99	4番目		
100-124	5番目	208-255	レーザー縦振り 左右(隣接)移動、速度可変
125-149	6番目		
150-174	7番目		
175-199	8番目		
200-213	6番目		
214-227	5番目		
228-241	4番目		
242-255	3番目		

設置/マウント方法

LASER7は床に直立状態でも使用可能ですが、安全のために天井へのマウントをお勧めします。マウントする際は必ず本体に合うクランプおよびセーフティーケーブルをご使用ください。

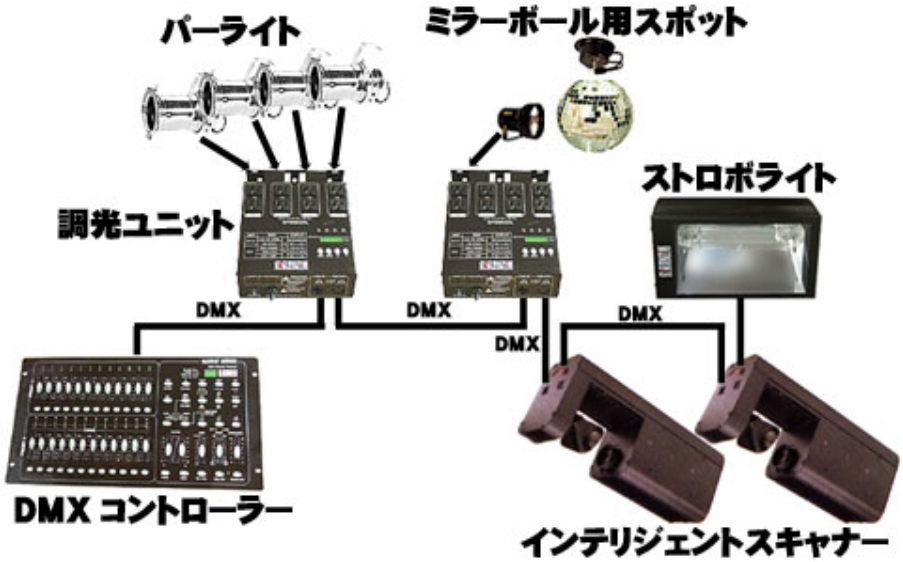
ヒューズの交換

本体を主電源に接続しても本体が稼動しない場合、ヒューズが切れた可能性があります。ヒューズを交換する際は以下の手順に従ってください。

1. 作業を始める前に必ず電源プラグを抜いてください。
2. ヒューズホルダーの固定ネジを緩めてカバーを外します。ヒューズ定格は本体のラベルおよび本マニュアルに記載してあります。必ず同定格のヒューズと交換してください。定格の違うヒューズと交換した場合、故障の原因となります。
3. ヒューズホルダーカバーを元通り締め、電源を入れます。ヒューズ交換後も本体が正しく作動しない場合、販売店および正規代理店にご相談ください。

DMX対応照明機器の基本的な接続方法

＜接続例＞



・DMX 対応の照明機器は、上の図の様に配線を行います。配線用ケーブルには DMX ケーブルもしくはマイクケーブルを使用してください。接続する台数に制限はありませんので、複数の照明機器を簡単に接続可能です。DMX 対応のスモークマシーンも同様に接続可能です。

・DMX 対応の照明機器を接続する順番は決まっていませんが、なるべく距離が長くならない様に配線を行ってください(※)。

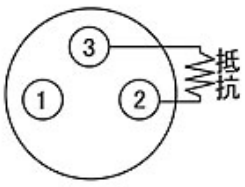
・調光ユニット(ディマー)を使用し、パーライト(PAR64 や PAR38 等)の明るさを調節します。

・インテリジェントスキャナーや、ストロボ等の電源は通常のコンセントからとってください。パーライト以外の照明機器の電源を調光ユニットから取った場合、動作が不安定になったり動作しない場合があるばかりか故障の原因にもなります。DMX 非対応のインテリジェントライトも同様に通常のコンセントから電源を取ってください。

※－長距離の配線について－

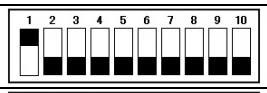
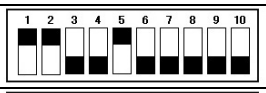
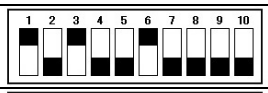
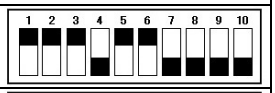
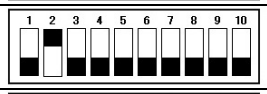
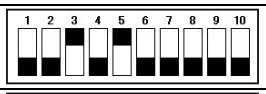
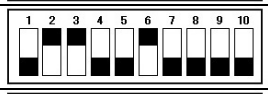
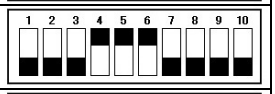
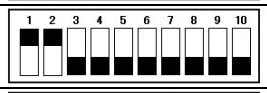
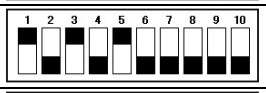
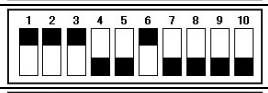
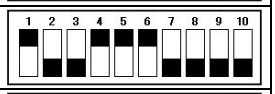
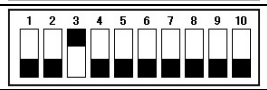
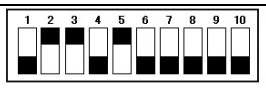
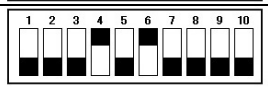
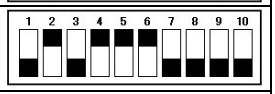
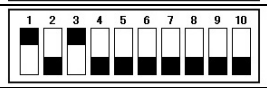
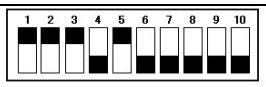
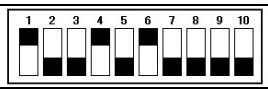
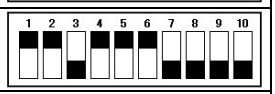
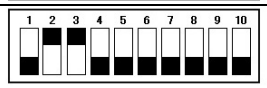
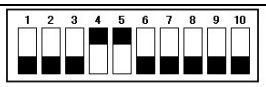
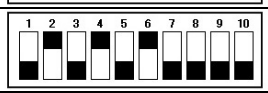
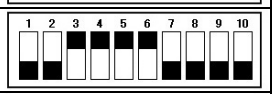
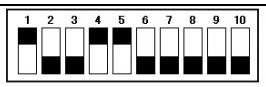
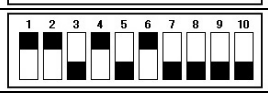
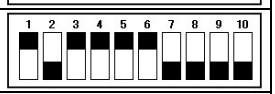
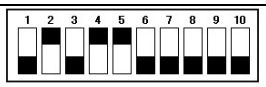
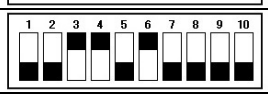
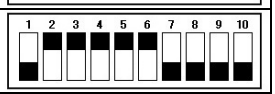
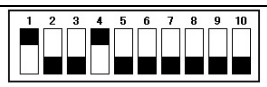
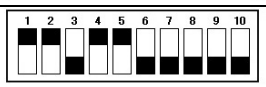
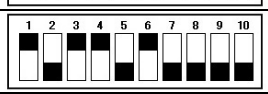
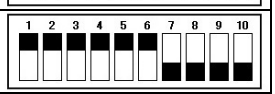
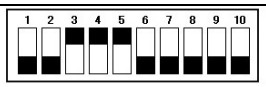
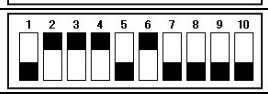
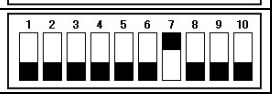
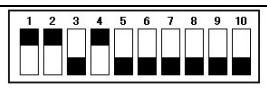
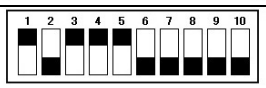
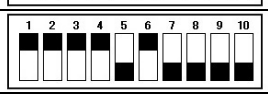
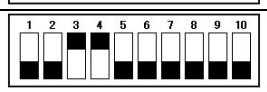
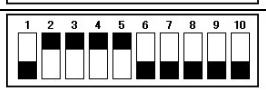
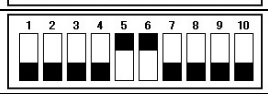
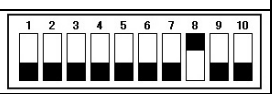
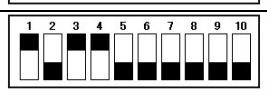
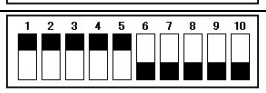
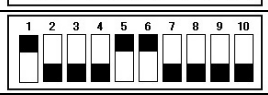
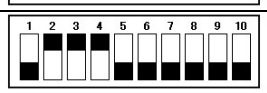
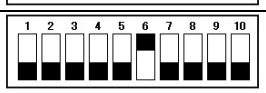
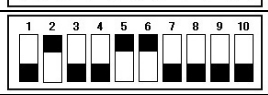
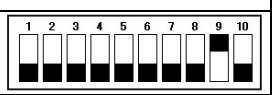
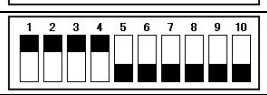
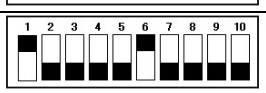
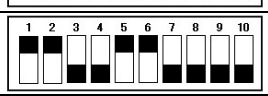
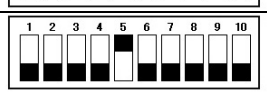
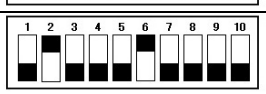
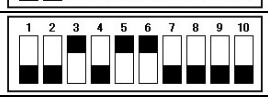
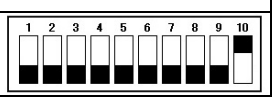
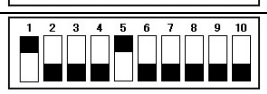
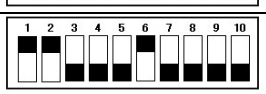
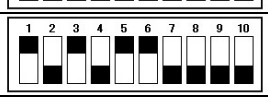
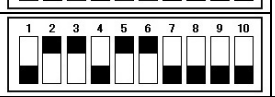
数 10m もしくは 100m を超えるような配線になる場合、DMX 信号の伝達がうまくいかず照明機器の動作が不安定になることがあります。その場合、ターミネーターを作成/使用してください。ターミネーターとは一番最後に接続された DMX 対応照明機器の出力に差し込むダミープラグをさします。作成の方法は下記の作成方法を参照して下さい。

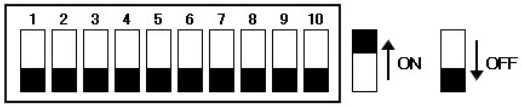
―ターミネーターの作成方法―　（ご自身で作成できない場合は、お求めの販売店にお問い合わせ下さい。）

	・キャノンオスコネクターをご購入いただき、120Ω 1/4W の抵抗を、図の様に２番と３番ピンにショートさせる形で作成します。

ディップ スイッチによるチャンネル設定

ディップスイッチを使用してチャンネル設定を行う照明機器のチャンネル設定は、下記の表を参照して下さい。設定方法についての詳細につきましては次項の『ディップスイッチによる DMX チャンネルの設定方法（詳細)』を参照して下さい。

Ch	ディップ スイッチ設定							
1		19		37		55	
2		20		38		56	
3		21		39		57	
4		22		40		58	
5		23		41		59	
6		24		42		60	
7		25		43		61	
8		26		44		62	
9		27		45		63	
10		28		46		64	
11		29		47		・ ・ ・	
12		30		48		128	
13		31		49		・ ・ ・	
14		32		50		256	
15		33		51		・ ・ ・	
16		34		52		512	
17		35		53			
18		36		54			



ディップスイッチによる DMX チャンネルの設定方法（詳細）

DMX のスタートチャンネルをディップスイッチで決めるタイプはすべて二進法で計算されています。

＜二進法とはなにか？＞

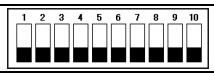
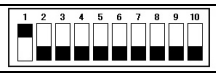
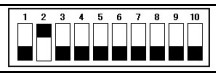
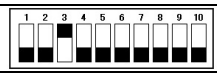
通常私たちの生活では十進法が使用されています。十進法とは，０～９を使って数字を表わし，10 になったら位を上げるという考え方です。 二進法とは，０もしくは１を使って数字を表わし，２になったら位を上げるという考え方です。

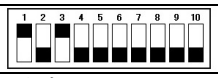
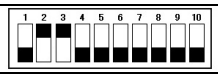
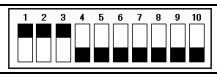
例をあげると

十進法	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
二進法	0	1	10	11	100	101	110	111	1000	1001	1010	1011

この様になり、二進法計算のディップスイッチでチャンネルを決める場合、『０＝OFF　1＝ON』の考え方になります。

スイッチの設定上　ON / OFF の並びが左右逆での繰り上げで設定となりますが、スイッチで表記した場合

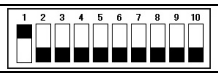
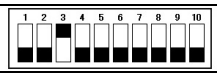
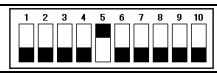
十進法	0	1	2	3	4
二進法	0	1	10	11	100
ディップスイッチ					

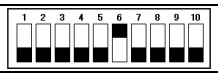
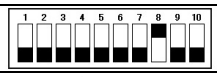
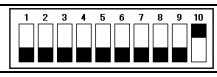
十進法	5	6	7	8	9
二進法	101	110	111	1000	1001
ディップスイッチ					

この様になります。

また、位の大きいチャンネルを設定する場合、下記の方法を覚えておくと簡単にチャンネルの設定が可能となります。

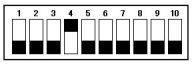
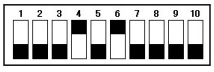
各番号のスイッチのみ ON にした場合

十進法	1	2	4	8	16
二進法	1	10	100	1000	10000
ディップスイッチ					

十進法	32	64	128	256	512
二進法	100000	1000000	10000000	100000000	1000000000
ディップスイッチ					

となりますが、通常の 10 進法と同様に、足し算ですべてのチャンネルを即座に計算することが可能となります。またその場合、全ての計算において、設定したいチャンネル数を上記の『各番号のスイッチのみを ON にした場合』にある、1, 2, 4, 8, 16, 32, 64, 128, 256 の数字に分解して考える必要があります。

例にとってみると

チャンネルを 40 に設定したい場合：　40 = 32 + 8 = ＋  = 

チャンネルを 62 に設定したい場合：　62 = 32 + 16 + 8 + 4 + 2

= + + + +

=

この様にして、簡単にチャンネル数を設定する事が可能となります。